

《薬局サーベイランスコメント》

「大阪府のインフルエンザの流行は既に昨シーズンのピーク並みだが今後更に流行が拡大する可能性が高く要警戒」

2015年1月6日

済生会中津病院感染管理室&ICT

安井 良則

薬局サーベイランス (<http://syndromic-surveillance.net/kanjyasuikei/index.html>) によると、2015年第1週(12月30日～1月4日)のインフルエンザの推計受診患者数は519,424(約52万人)と前週(第52週)の値(887,980)を大きく下回りましたが、これは多くの医療機関が年末・年始で休診し、受診のためのアクセスが普段よりも困難であったことも関係していると考えられます。一方で、過去3シーズンの同時期にあたる各シーズンの第1週の推計受診患者数よりもかなり多くなっていて(3.7～10.8倍)、今シーズン(2014/2015年シーズン)のインフルエンザの流行規模は例年の同時期を大きく上回った状態が継続しています。

年末・年始の連休明けの月曜日(1月5日; 2015年第2週の初日に相当)の推計受診患者数は271,919(約27万人)と過去3シーズンのインフルエンザの流行のピークの週(2012年第5週、2013年第4週、2014年第5週)の最も患者数の多い休日明けの月曜日の値にほぼ匹敵していて、第2週は例年のインフルエンザの流行のピークに近い流行規模となる可能性が高いです(図1)。

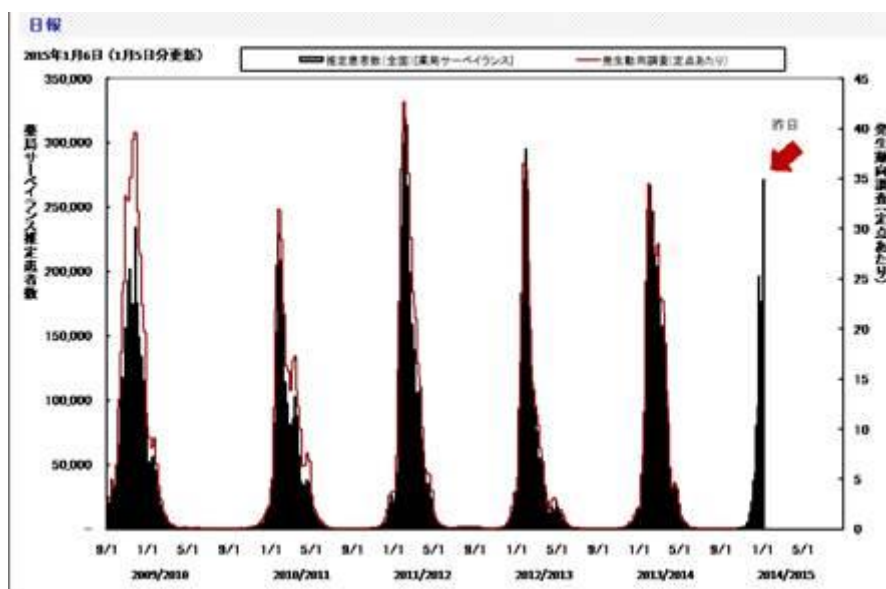


図 1. 薬局サーベイランスによる全国のインフルエンザ推計受診患者数の日別推移

( 2009 年 9 月 1 日 ~ 2015 年 1 月 5 日 、  
<http://www.syndromic-surveillance.net/kanijasyuikai/flu/full/index.html>)

大阪府の流行は、昨年末（第 52 週）の時点で既に過去 3 シーズンのインフルエンザの流行のピークにほぼ匹敵する大きな流行となっていました。年末・年始の連休があけた月曜日（1 月 5 日）の推計受診患者数は 20,629（約 2 万 600 人）と今シーズン最多を更新しており（図 2）、今後の流行の拡大には警戒が必要です。

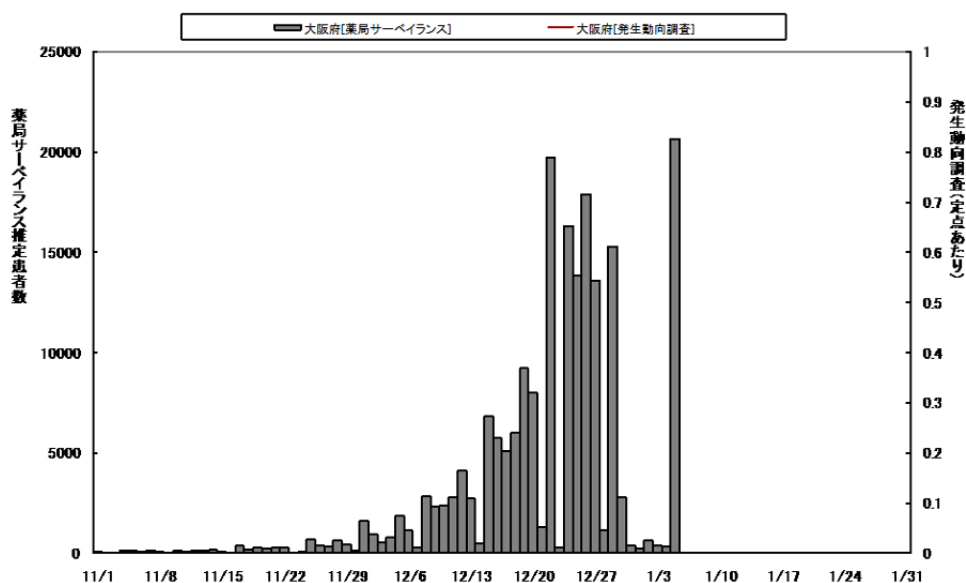


図 2. 薬局サーベイランスによる大阪府のインフルエンザ推計受診患者数の日別推移  
( 2009 年 9 月 1 日 ~ 2015 年 1 月 5 日 、  
[http://www.syndromic-surveillance.net/kanijasyuikai/flu/2014\\_15/28\\_osaka.html](http://www.syndromic-surveillance.net/kanijasyuikai/flu/2014_15/28_osaka.html))

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>) によると、これまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルスは大半が A/H3 (A 香港) 亜型である状態が続いています。

2015 年第 2 週のインフルエンザの流行規模は、過去 3 シーズンの流行のピーク時に匹敵する大きなものとなる可能性があります。学校・幼稚園等の小児の集団生活施設が再開することによって、今後更に流行が拡大していくことが予想されます。特に大阪ではインフルエンザの流行の推移には警戒が必要です。